

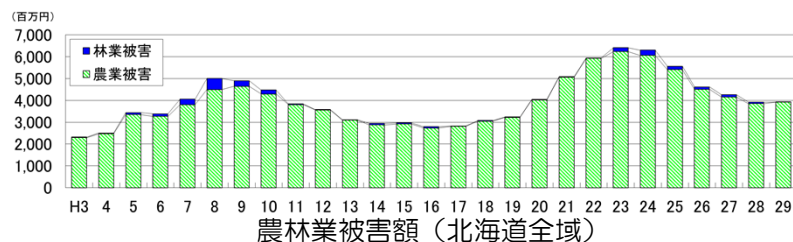
②9 鳥獣被害防止を目的とした研修、捕獲従事者の育成等を推進

【北海道】

- エゾシカ捕獲の担い手であるベテラン狩猟者が高齢化に伴い減少。
- 捕獲経験の少ない狩猟者を対象に捕獲技術向上の講習を実施することで、将来に向けた捕獲体制の維持を図る。

地域概要

- 北海道では、農林業被害金額の内、エゾシカによる被害が全体の8割を占める。
- 農林業の被害額は平成23年度のピーク時に比べ減少しているが、農林業への被害や交通事故等による人間社会への影響、採食や踏み付けによる生態系への影響が深刻な問題となっている。
- 人とエゾシカの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に寄与するため、「北海道エゾシカ対策推進条例」を制定（平成26年3月）



(出典：北海道HP)

対策の背景

狩猟者の高齢化、人材育成

- エゾシカ捕獲の担い手であるベテラン狩猟者が高齢化に伴い減少。
- 都市部で狩猟免許を取得する若手狩猟者は増加傾向にあるが、趣味等で始めることが多く、専門的に知識・技能を学ぶ機会が少ない。
- 即戦力として地域の鳥獣被害対策に貢献できる人材育成が重要。

対策の内容・結果

【研修、捕獲従事者の育成等を推進】

- 認定鳥獣捕獲等事業者を活用した捕獲研修を行い、地域における捕獲従事者の育成等を推進。
- 各地区で、猟銃講習、わな猟講習を実施（平成27年度より毎年実施、各回10～30名程度の受講者が参加）

- 捕獲経験の少ない狩猟者を対象に捕獲技術向上の講習を毎年実施することで、将来に向けた捕獲体制の維持が図られる。



講習の様子
(出典：北海道提供資料)



猟銃講習の様子
(出典：北海道提供資料)